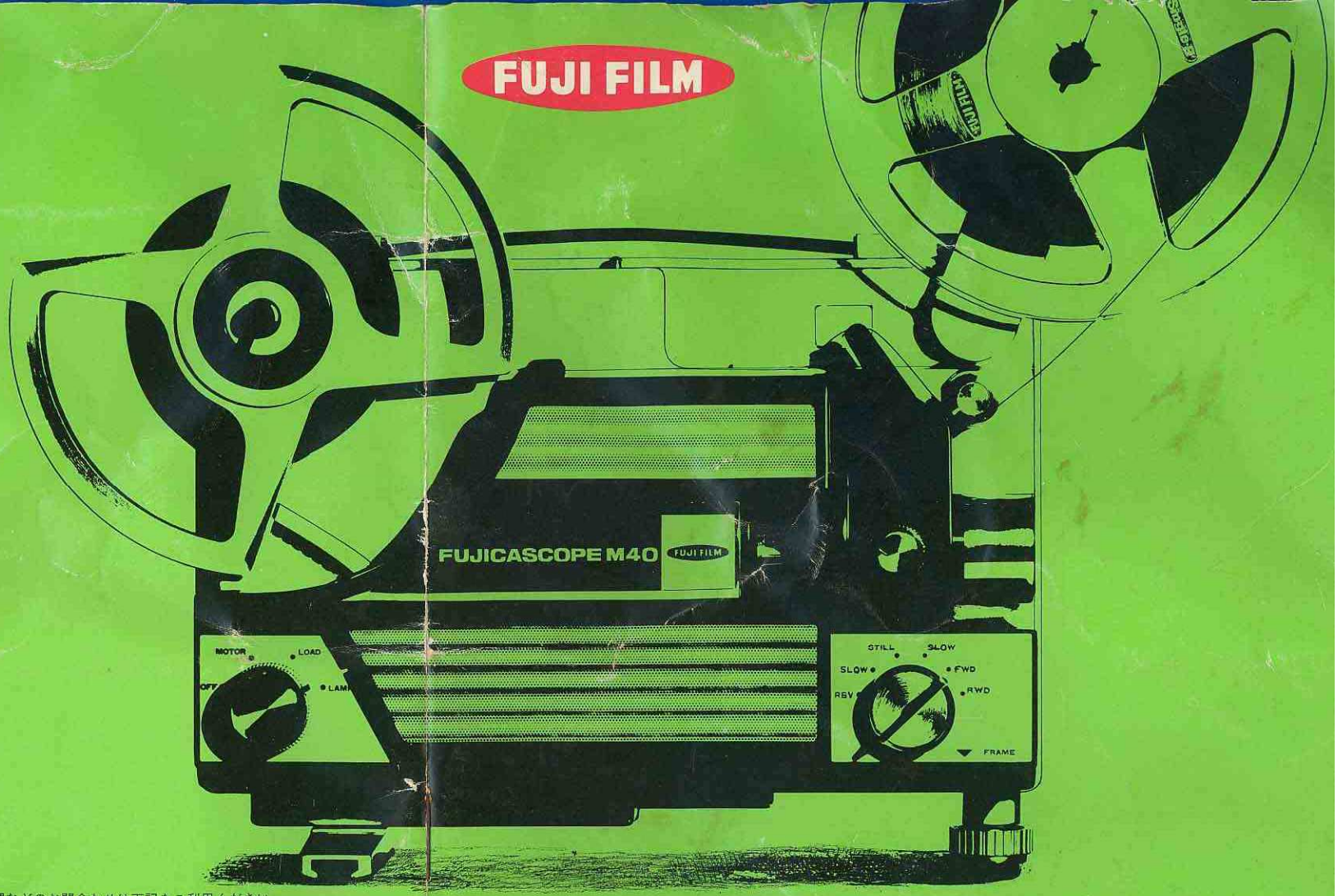
FUJI FILM



FUJICASCOPE M40

フジカスコープ M40 の使い方

富士写真フイルム株式会社
東京都港区西麻布2－26－30　〒106

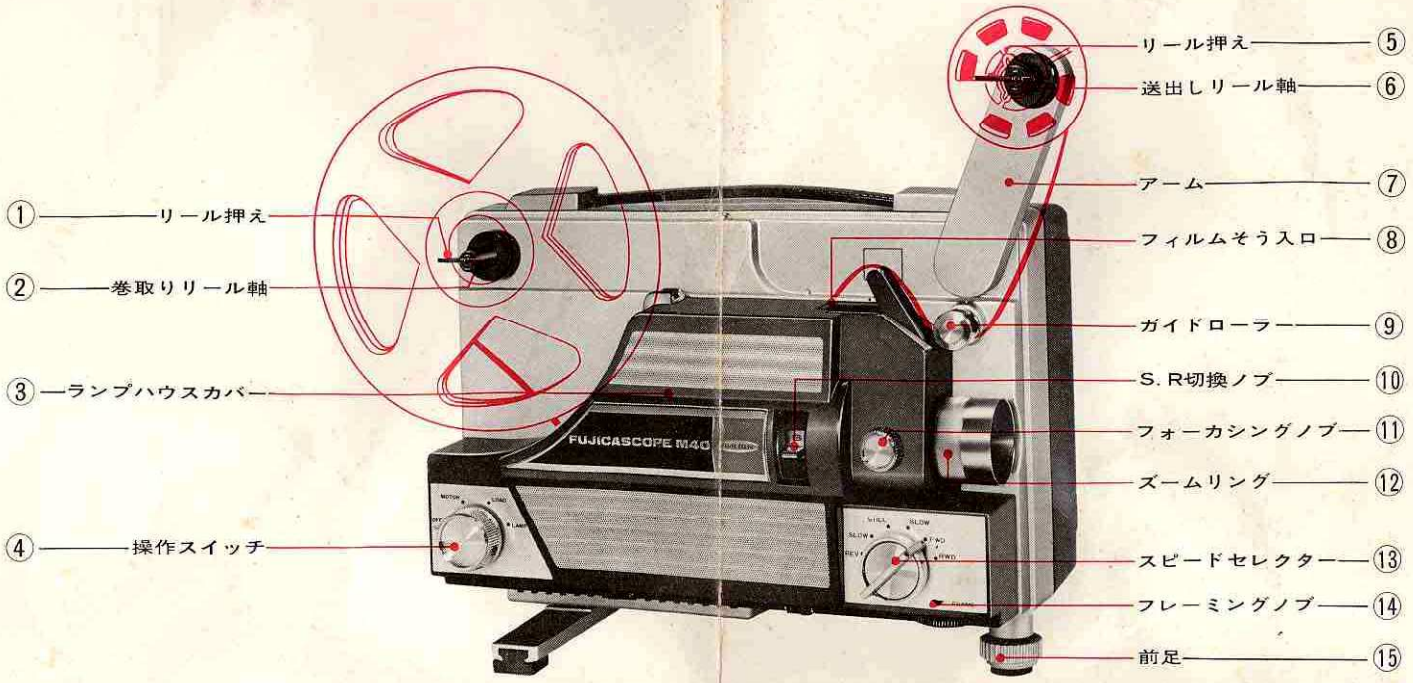
お問合わせ先　フジカ製品の使い方、あるいは性能、点検、修理などのお問合わせは下記をご利用ください。

フジカサービス ステーション
ショールーム・富士フォトサロン

東京都中央区銀座5－1先スキヤ橋ショッピングセンター　〒104	TEL東　京(03) 571－9411
横浜市中区相生町4－69　和孝ビル(2F)　横浜フジカサービス　〒231	TEL横　浜(045) 662－2231
札幌市中央区北2条西4丁目　札幌三井ビル別館(3F)　〒060	TEL札　幌(011) 241－7161
新潟市河渡丁70－1　新潟フジカラー現像所内　〒950	TEL新　潟(0252) 75－1341
仙台市本町2－10－33　第2日本オフィスビル　富士フイルム仙台出張所内　〒980	TEL仙　台(0222) 21－2601
名古屋市中区栄2－10－19　商工会議所ビル　富士フイルム名古屋出張所内　〒460	TEL名古屋(052) 221－6181
大阪市東区備後町4－15　富士フイルム大阪支社内　〒541	TEL大　阪(06) 203－5212
岡山市中山下町1－2－36－201号　有森ビル(2F)　〒700	TEL岡　山(0862) 23－4876
金沢市堀川町5－10　堀川ビル内　〒920	TEL金　沢(0762) 63－0033
広島市大手町2－11－15　新大手町ビル　富士フイルム広島出張所内　〒730	TEL広　島(0822) 48－0281
高知市日の出町158　高知現像所内　〒780	TEL高　知(0888) 5－7783
福岡市中央区天神1－14－1　日本生命ビル　富士フイルム福岡出張所内　〒810	TEL福　岡(092) 74－0231

東京本社インフォメーションセンター　東京都港区西麻布2－26－30　〒106　TEL東　京(03) 406－2590

宣匠－73.9－CO.5－5④



性能

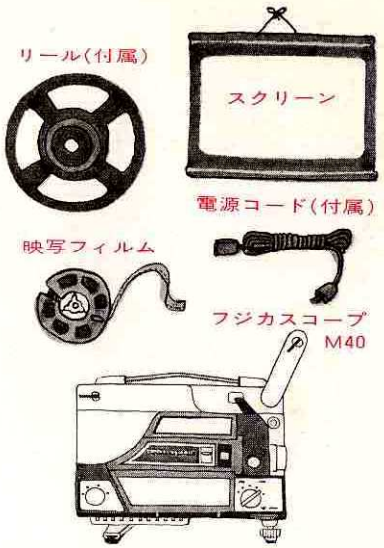
映写レンズ	フジノンPJZ　F/1.3 f＝15～25㎜
映写ランプ	12V　75W　高効率ハロゲン映写電球(Hi-Lo切換え)
モーター	特殊設計によるインダクショントランスモーター
映写フィルム	シングル－8（スーパー－8）、レギュラー－8（ダブル－8）のいずれのフィルムも映写可能の兼用機（切換えはレバーによる）
フィルム装てん	リール巻付きまでのフルオートローディング
フィルム給送	スプロケットレス
映写スピード	正転　18コマ／秒　6コマ／秒（スローモーション）逆転　18コマ／秒　6コマ／秒（スローモーション）スチル映写の5速
巻戻し	急速巻戻し
使用リール	7号まで（Single－8で180m）
映写仰角	＋5°～－1°　前足回転式
電源	AC100V　50・60Hz専用
ルームライトコンセント	200Wまで使用可能
付属品	専用オートリール　電源コード　アパーチュアーブラシ　フィルムカッター（表カバーに付属）　ビニールカバー
別売付属品	ハイファイレンズ

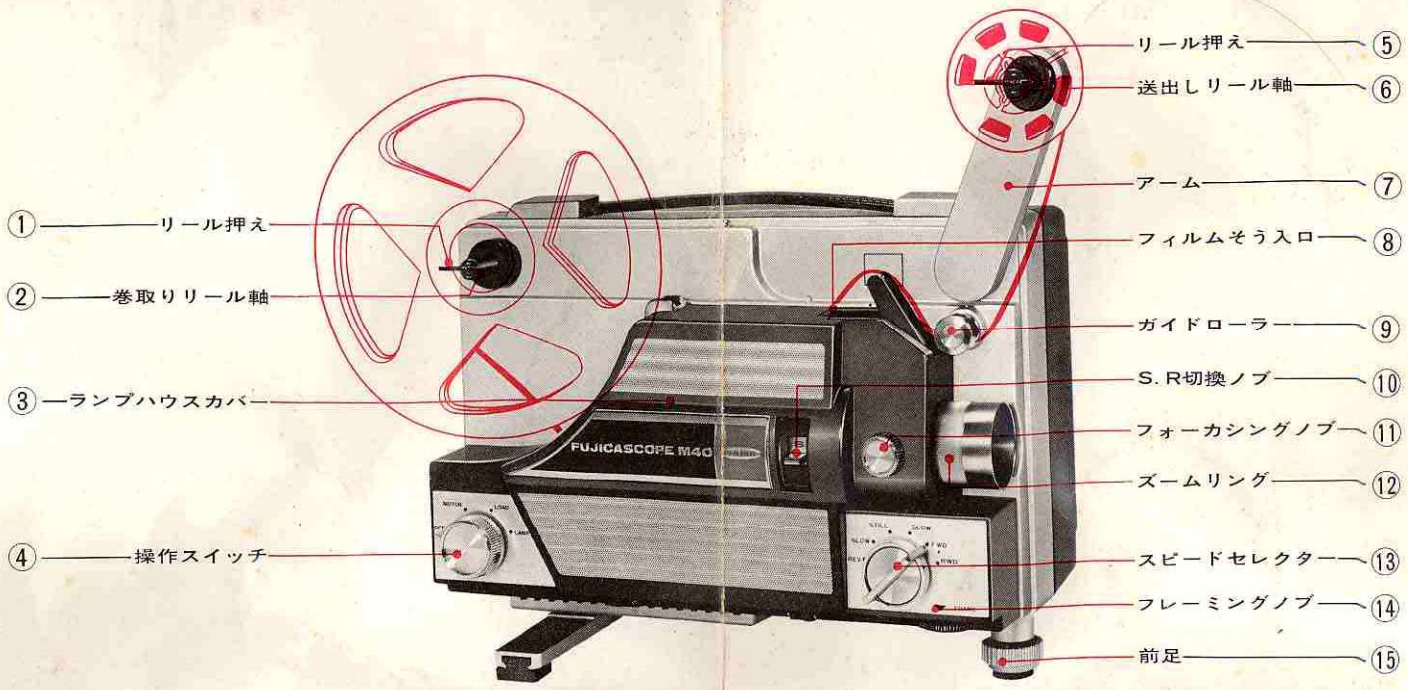
＊本機の定格および外観の細部については予告なしに改良変更することがありますのでご了承ください。

1 表カバーを開く

表カバーの上方を手前に引いて開いてください。表カバーの内側に電源コード、オートリール、アパチュアーブラシが入っています。この内、電源コード、オートリールは映写に必要ですから取りだしておいてください。その他、映写フィルム、スクリーンをご用意ください。もしスクリーンがない場合は、ケント紙などの白紙をご用意ください。

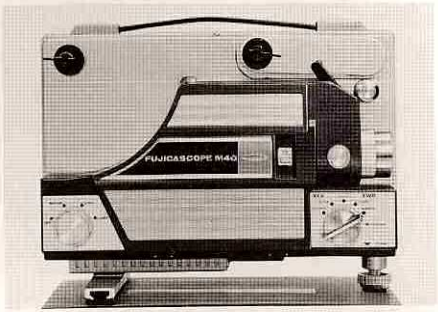
これだけは準備しましょう





2 映写機をセットする

まず、表カバーをカッターが手前になるようにして伏せ、その上に映写機をスクリーンに向けてのせてください。つぎに、操作スイッチ④がOFFになっていることを確認してください。



3 電源コードをつなぐ

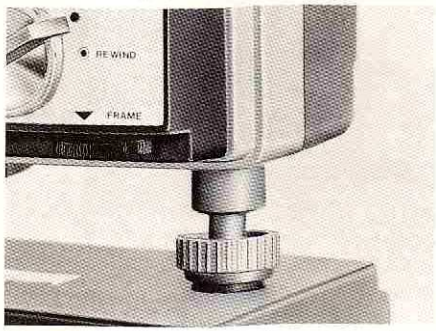
電源コードを映写機背面の電源ソケットに差込み、操作スイッチをMOTORからLOAD-LAMPにして、スクリーンに投影してください。

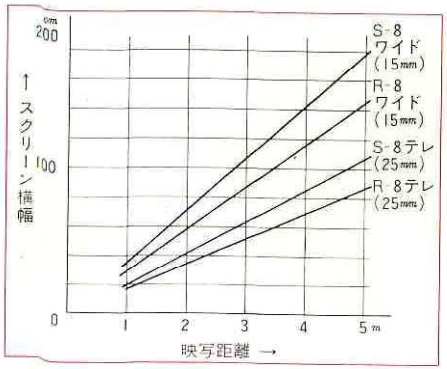
4 画面の位置を決める

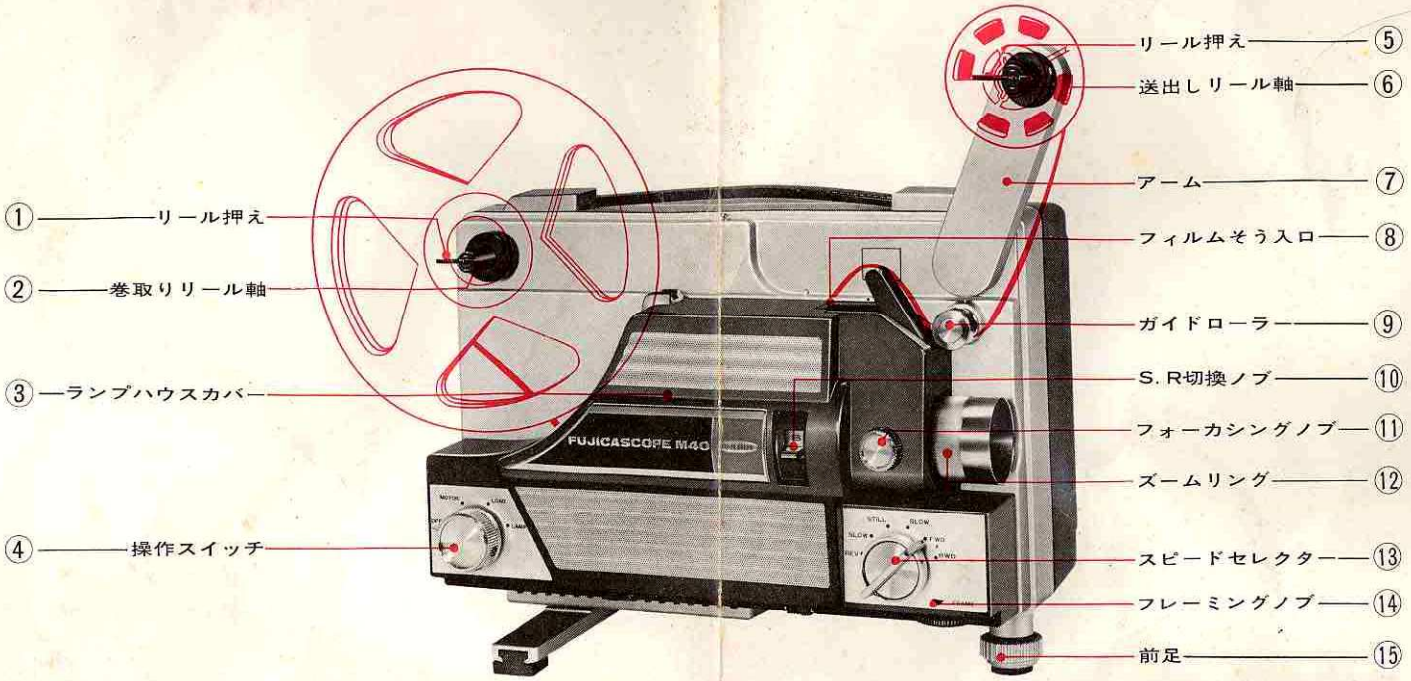
投影された画面の輪郭が、スクリーンの中心になるように調節してください。上下の角度の調節は、前足⑮を回して行ないます。

スクリーンまでの距離と画面の横巾の関係はつぎの表の通りです。たとえば、シングル－8で映写距離が3mの場合、ズームリングを回すことによって画面の横巾は、ワイド（焦点距離15㎜）にして107㎝からテレ（25㎜）で64㎝までの間を自由に変えることができますのでスクリーンに合わせて調整してください。

画面の位置が決まりましたら、操作スイッチをOFFに戻してください



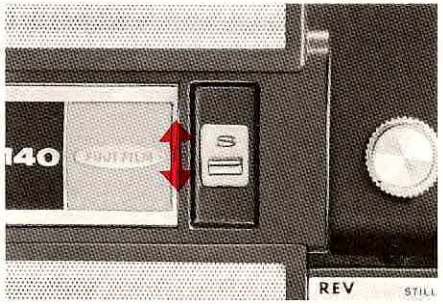




5 シングル－8（スーパー8）とレギュラー8（ダブル－8）フィルムの切換

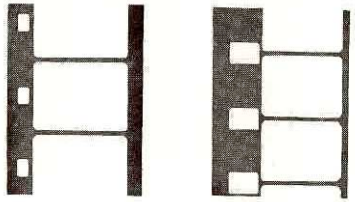
映写するフィルムがシングル－8の場合は、ランプハウス正面のS・R切換えノブ⑩を“S„に、レギュラー8の場合は“R„に合わせてください。

注：切換えは必ずフィルム装てん前に行ない、映写状態での切換えは行なわないでください。なおフィルム装てん後に切換えを必要とした場合は、スピードセレクター⑬をSTILLにしてから切換えてください。



● シングル－8（スーパー8）とレギュラー8（ダブル－8）フィルムの違い。

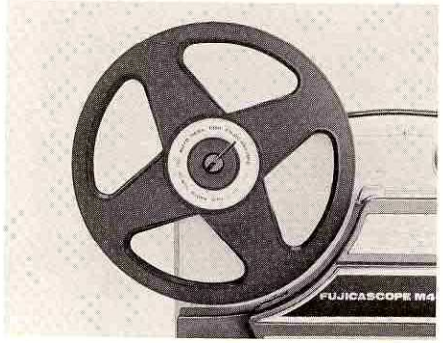
シングル－8は、パーフォレーション（フィルムの送り穴）が小さく縦長で、画面のほぼ中央についています。レギュラー8は、パーフォレーションが大きく横長で、画面と画面の間についています。



シングル-8（スーパー8）　レギュラー8（ダブル－8）

6 オートリールを取付ける

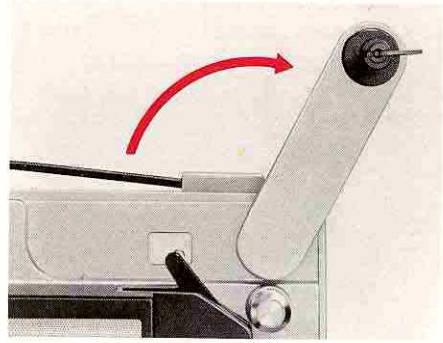
巻取りリール軸②のリール押え①を起し付属のオートリールを富士フイルムのマークを手前にして巻取りリール軸いっぱいに押込み、リール押えを倒して止めてください。（このオートリールはシングル－8、レギュラー8の共用です。）

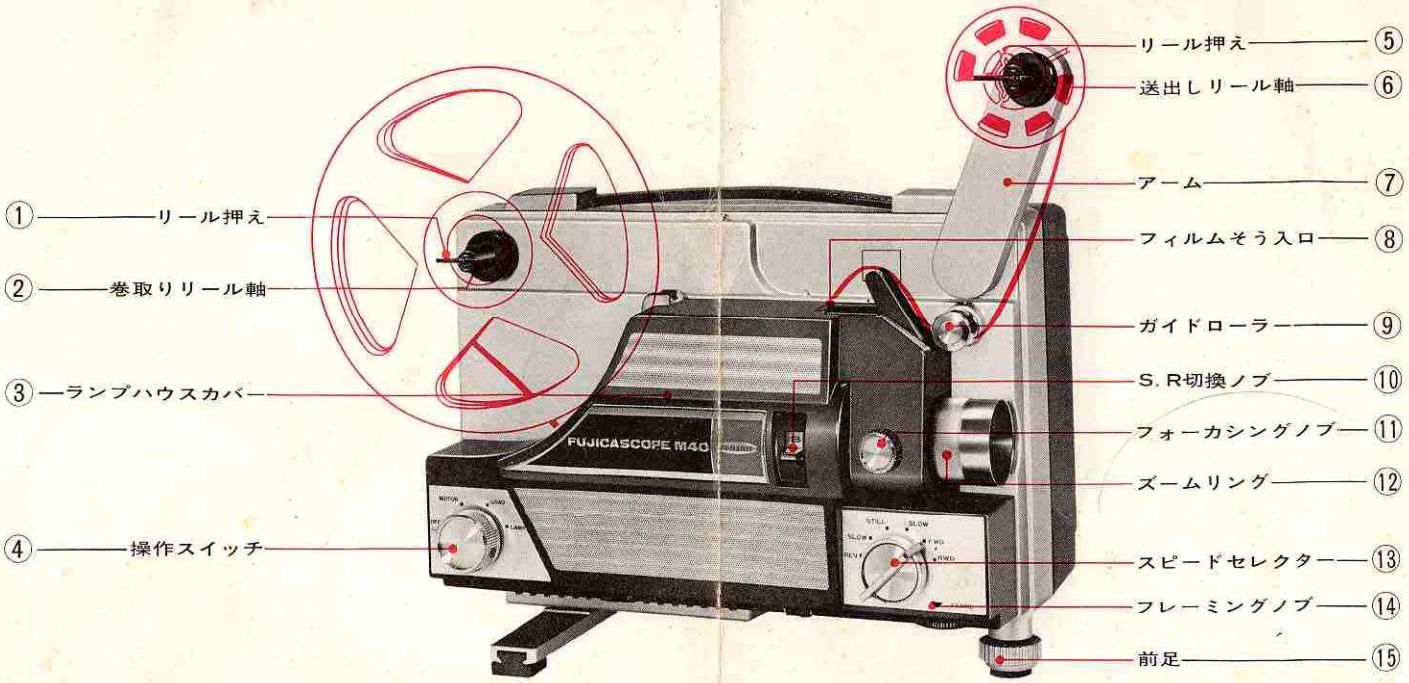


7 アームを起す

アーム⑦を止まるまでいっぱいに引き起してください。途中で止めて映写しますと、正常な映写ができないと同時にフィルムを傷めることがありますのでご注意ください。

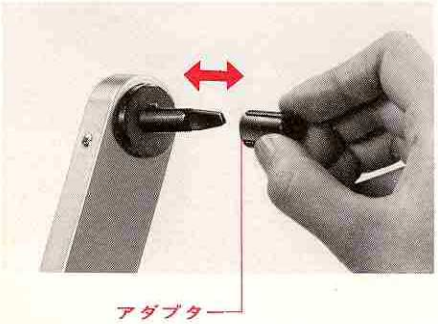
つぎに、リール押え⑤を起してください。





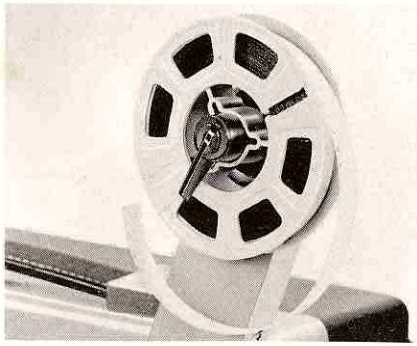
8 フィルムのタイプとリール軸を合わせる

送出しリール軸⑥は、映写するフィルムがシングル－８のときはそのまま、レギュラー８のときはアダプターをはずしてください。アダプターは手前に引けばはずせます。差込む際は溝にピンを合わせて差込みます。はずしたアダプターは、表カバー裏側の電源コード収納部の右下にある収納部（筒状）に差しておきます。



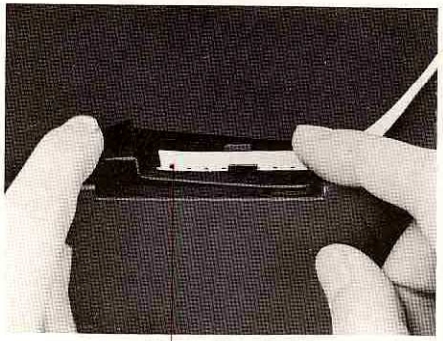
9 映写リールを取付ける

映写リールを、フィルムの送り穴が手前になるようにして送出しリール軸いっぱいに押込み、リール押えを倒して止めてください。



10 映写フィルムの先端をカットする

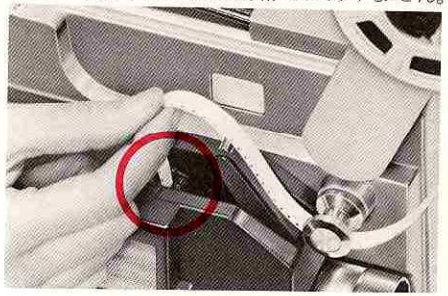
映写フィルムの先端が折れていると装てんがスムーズにいきません。表カバーに付いているカッターで切り整えてください。カッター上の小突起に、フィルムの穴を合わせて押し切ります。

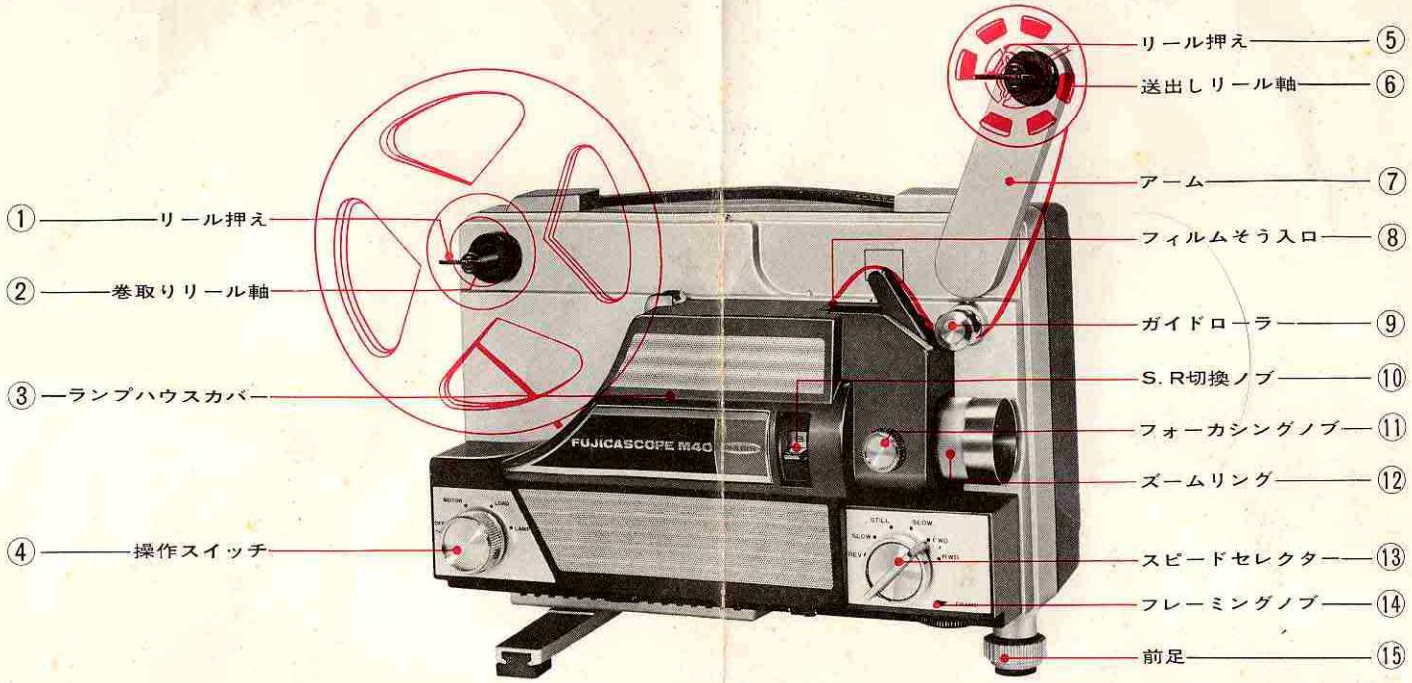


11 フィルムの装てん

スピードセレクター⑬をFWD側のNORMALに回し、フィルムの先端を手で押えて操作スイッチをMOTOR-LOADへ回します。フィルムはガイドローラー⑨の下を通し、フィルムそう入口⑧にフィルムが送られるまで（約4 cm）差込んでください。

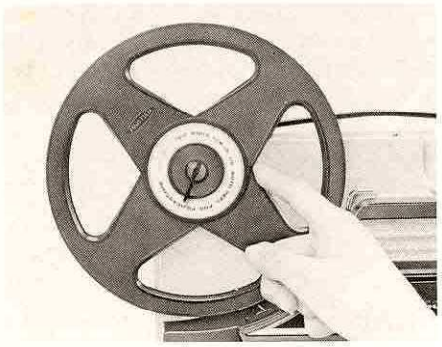
注： フィルムを手で押えずに操作スイッチをLOADにしますと、フィルムは逆回りしますがこれは異常ではありません。





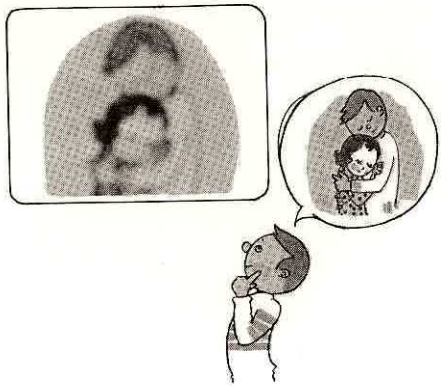
12 フィルムがオートリールに巻付く

しばらくするとフィルムがオートリールに巻付きます。もし巻付かない場合は、操作スイッチをOFFにして、手をそえて巻付けてください。



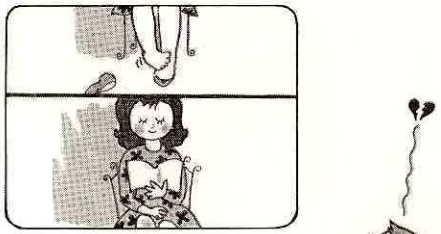
13 ピントを合わせる

操作スイッチをさらにLAMPに回すと点燈し、スクリーンに画面が投影されます。投影された画面がボケている場合は、フォーカシングノブ⑪を左右に回して、はっきりするまで調節してください。



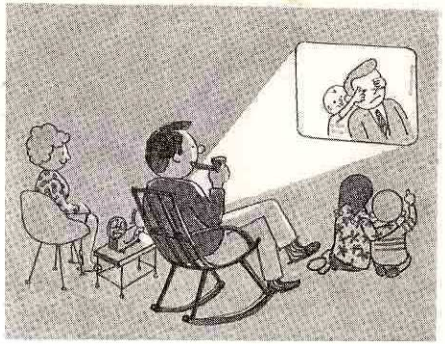
14 フレームの調整

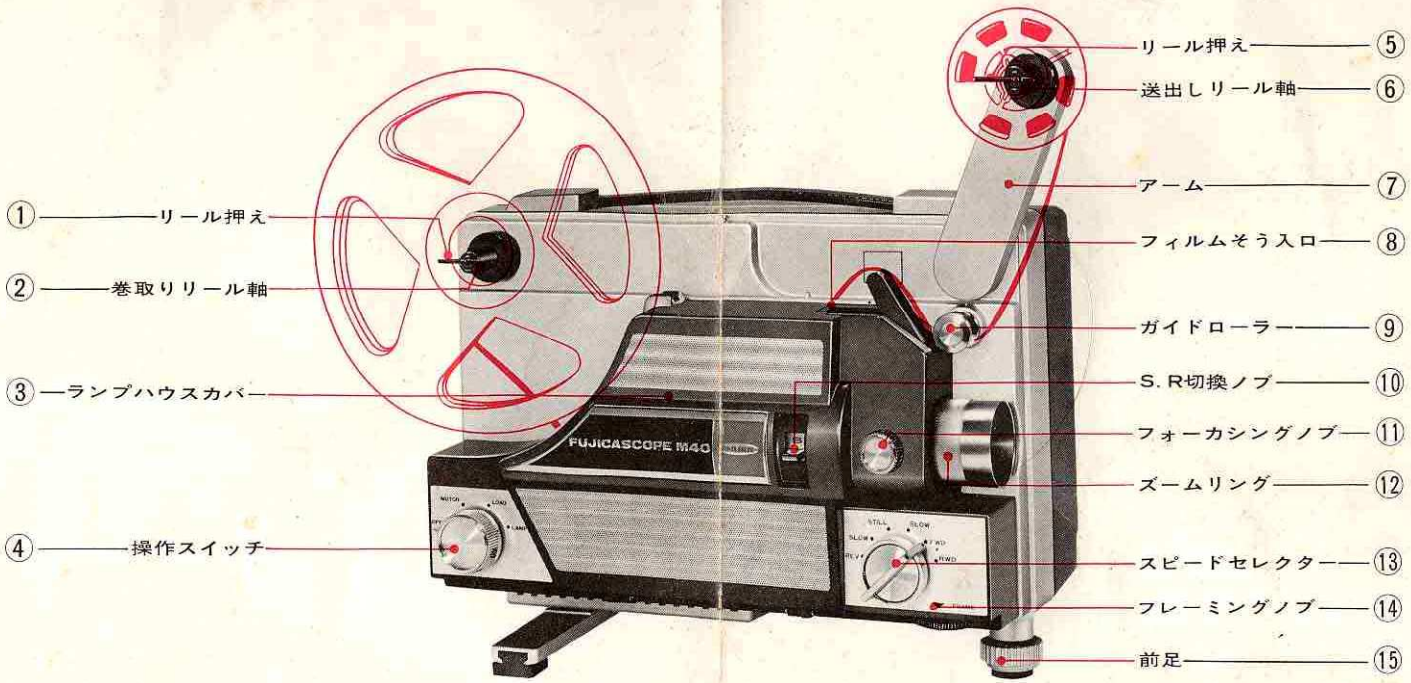
スクリーンの画面にフィルムの上下の境目（フレームライン）がでるようなときは、フレーミングノブ⑭を回して調整してください。



15 映　写

調節が終りましたら、スピードセレクターをREV側に回してフィルムをスタートの位置まで戻し、操作スイッチをOFFにしてください。再びスピードセレクターをFWD側のNORMALにセットして室内の電燈を消し、操作スイッチをMOTOR－LOAD－LAMPにすると映写の開始です。



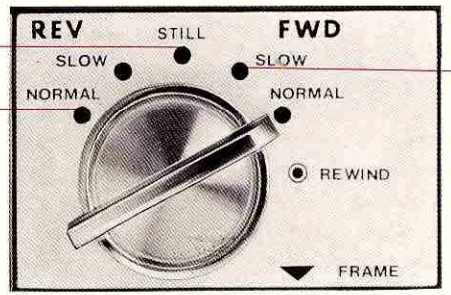


16 スチール映写ができます

映写中、画面を止めて見たいと思うときは、スピードセレクターをSTILLに回してください。再び映写を続けるときはスピードセレクターをNORMALに戻してください。

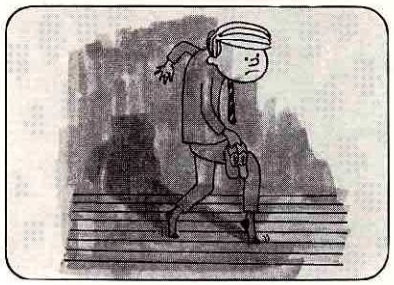
17 逆転映写ができます

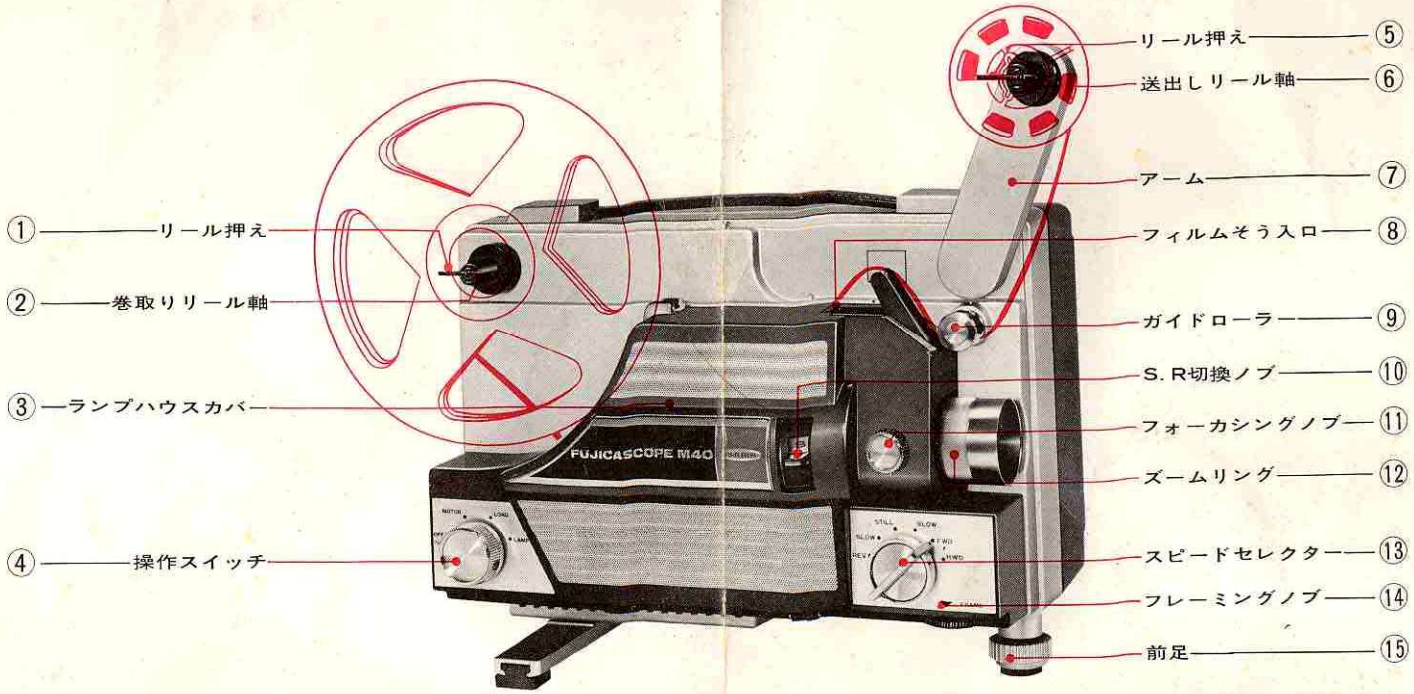
映写中、スピードセレクターをREV側に回すと、逆転映写になります。



18 スローモーション映写ができます

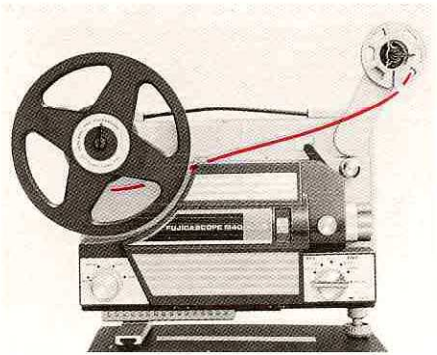
映写中、スピードセレクターをFWD側のSLOWに回すと、標準映写の⅓の速度のスローモーション映写になります。
また、REV側のSLOWに回すと、逆転のスローモーション映写になります。





19 映写が終ったら

操作スイッチをOFFにしてモーターを止めてください。つぎにオートリールに巻取られたフィルムを、写真のように直接送出しリールに巻付けてください。



つづいてスピードセレクターを右へいっぱいに回してREWINDにし、さらに操作スイッチをMOTOR－LOADに回せばフィルムは巻戻されます。

なお、スピードセレクターのREWINDは映写終了の際の巻戻し用で、映写途中からの巻戻しはできませんのでご注意ください。もし映写中、誤ってREWINDに回したときは、直ちに元へ戻してください。

20 簡易トーキーで映写を楽しく

フジカスコープM40は、スピードセレクターをFWD側のNORMALに回すと、そのスピードはほとんど変化することがありませんので、カセットテープレコーダーと同時に映写すれば簡易トーキー映写が楽しめます。録音の仕方は、映写フィルムとテープのスタートを合わせて同時に運転を開始し、画面に応じて音楽、説明などを録音していきます。こうしてでき上ったフィルムは、8ミリの楽しさをさらに増すことでしょう。

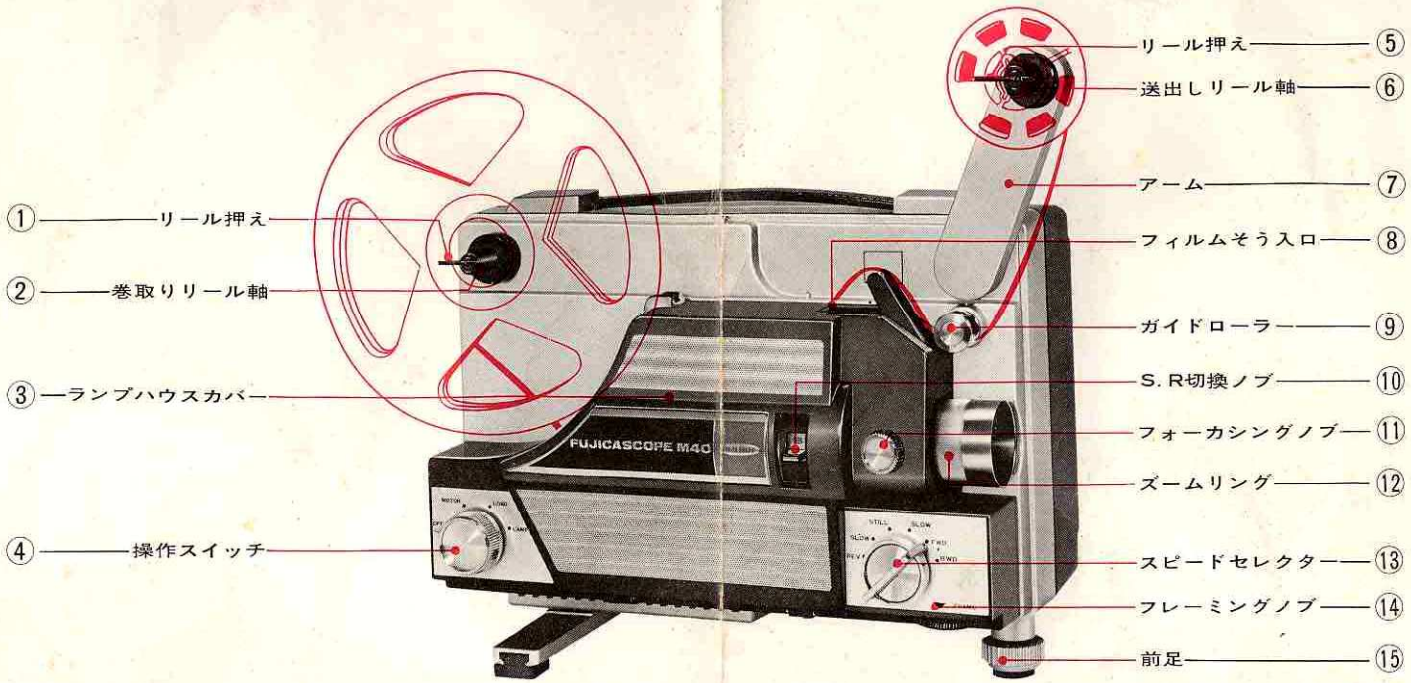
映写中、画面の方が進んだ場合は、スローモーションにして合わせてください。また音の方が進んだ場合は、テープレコーダーを一時停止して合わせてください。

ご注意

このフィルムとテープは、他の映写機とテープレコーダーで映写した場合、画面と音とが大きくずれることがあります。

21 ルームライトコンセントの使い方

映写中、手元にスタンドを使用する場合またはトーキー映写にテープレコーダーを使用する場合の電源としてご使用ください。取りだし得る電流は、200Wまでです。



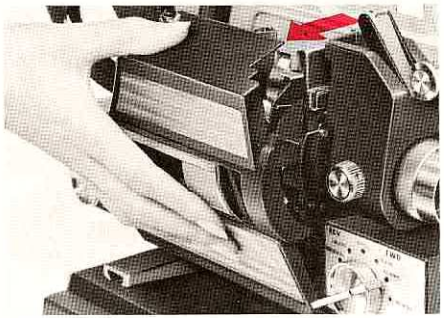
22 電球の切れたとき

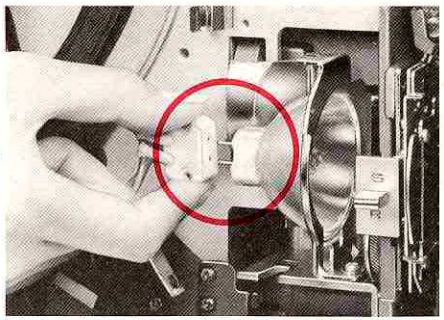
電球の交換は、必ず電源を切ってから行なってください。

まず、ランプハウスカバーの上部を手前に軽く引いて開いてください。つぎに電球が充分に冷えたことを確認してから、電球後部のソケットを引いてください。つづいて電球の後部を持ち、上に持上げながら底部を左に引けば電球は取りはずせます。

新しい電球は、まず電球のミラー前部の小突起を手前にして、電球上部をばねの間に差込みながら上に押上げ、さらに底部を右に押せばセットされます。なお、ミラー前部の小突起が取付板の切欠部に入っていることを確認してください。

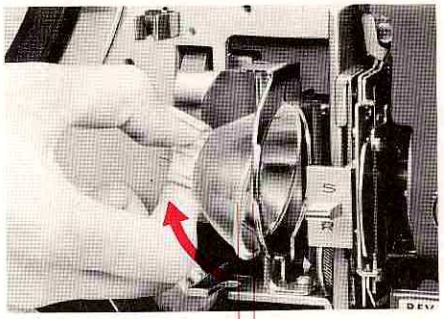
つぎに電球の2本のピンにソケットを差込んでください。

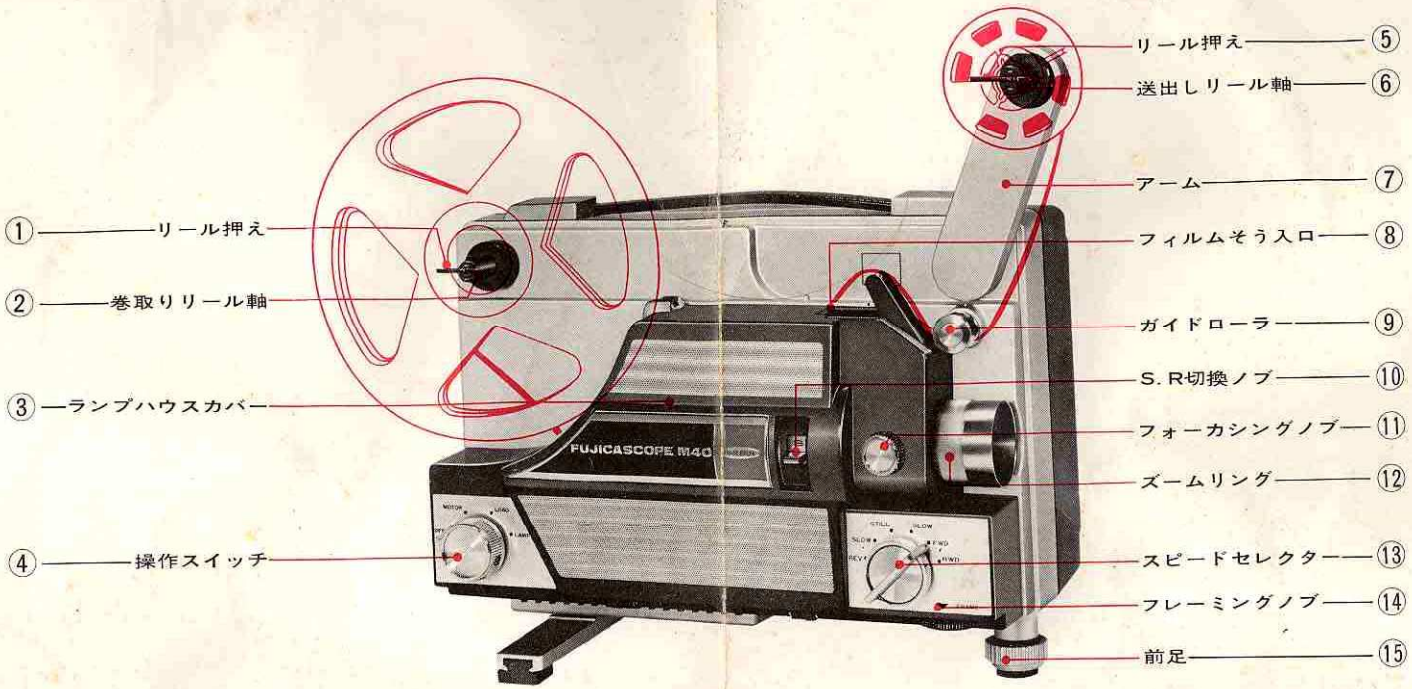




ご注意

- 電球は、富士プロジェクションランプ 12V 75Wをご使用ください。
- 映写のときは、万一に備えて予備の電球をご用意ください。
- 特殊高効率電球を使用しているため、点燈中または消燈後に強い振動を与えると断線するおそれがありますから、ご注意ください。
- ランプハウスカバーを開いたまま、絶対に映写しないでください。
- 使用電圧の高い所では、電球の寿命が短くなります。その時は、裏カバーを硬貨などで開き、HIGHにセットされている赤い差込みをLOWに差換えてください。





23 取扱い上のご注意

映写終了後は、必ず冷却してから保管してください。

操作スイッチをMOTORに回し、ファンを数分間回転させて冷却します。

●映写機を止めるときは

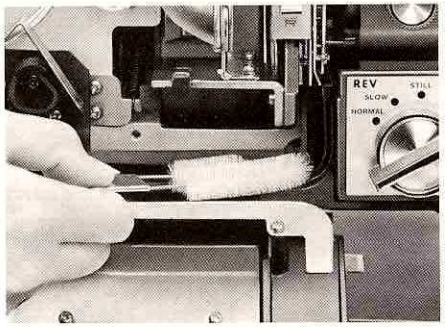
必ず操作スイッチをOFFにして止めてください。

●保管するときは

使わないときは、付属のカバーをかけて湿気のないところに置きましょう。前カバー内にオートリール、コード、アパーチュアーブラシを入れておいてください。

●フィルム通路の清掃

電源コードをはずしてからランプハウスカバーを開き、フィルム通路をアパーチュアーブラシで清掃してください。

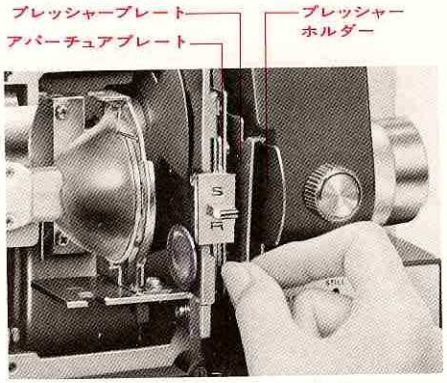


●プレッシャープレートの清掃

まず、フォーカシングノブを回してレンズを前方にだし、プレッシャーホルダーを右に開いてください。

つぎに、プレッシャープレートを右に移動して取りだし、アパーチュアーブラシでプレッシャープレート、およびアパーチュアープレートを静かに清掃してください。

清掃後は、プレッシャープレートを逆の要領で、手前の2本のピンとプレッシャープレートの2個の孔とを合わせて取付け、プレッシャーホルダーを閉じてください。

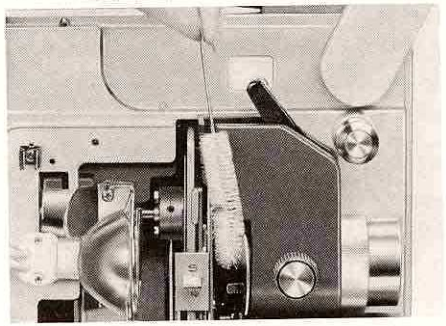


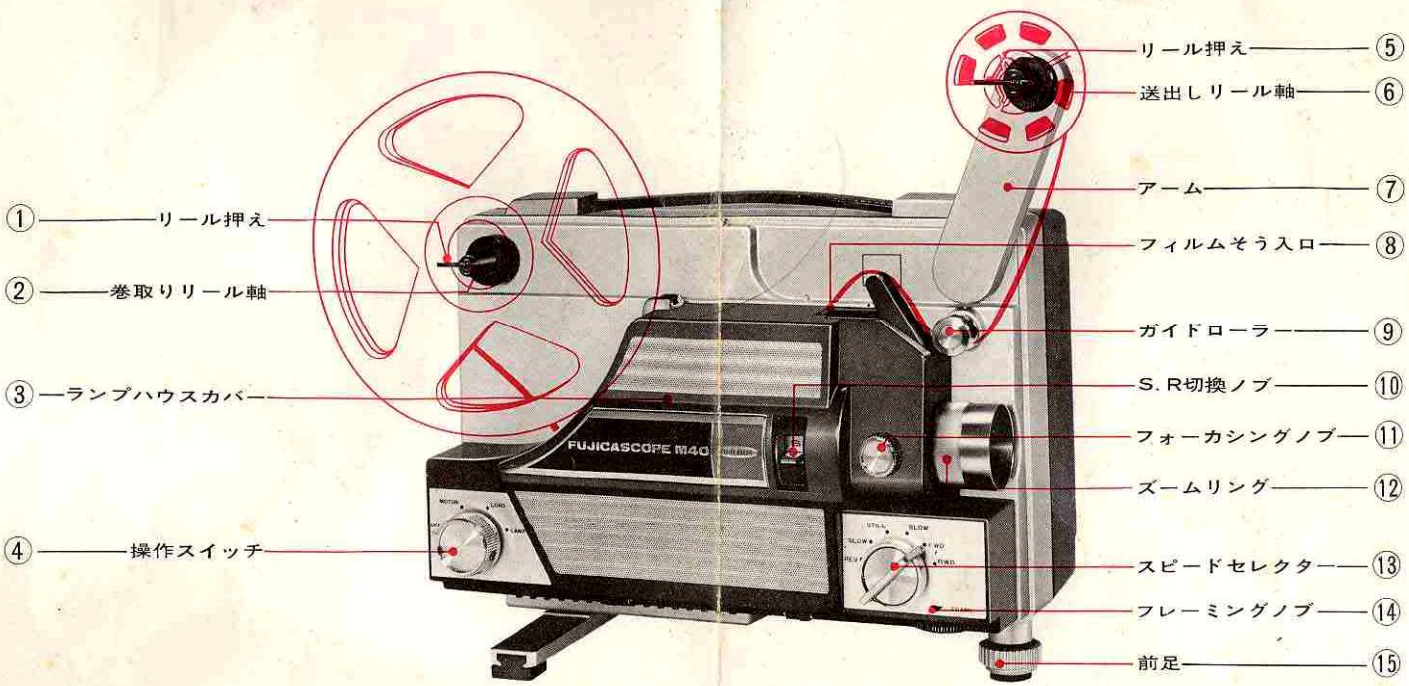
なおプレッシャープレートは、曲げたりキズを付けたりしないように注意してください。

●レンズの清掃

レンズは、清潔な柔らかい布でホコリを払ってください。

また、もし指紋、油などが付いたときはレンズ清浄剤（レンズスキット）を布に





浸ませて拭いてください。

■ご注意

周波数の違った地域でお使いの場合は、スピードが変わりますので次の操作をしていただければ50Hz，60Hzの地域でもご使用できます。

- 50Hz（ヘルツ）の機械を60Hz地域で、ご使用の場合
  裏カバーを硬化などで開き、モーター軸についている段付きプーリーをドライバーでゆるめ、小さい径の方に移動させて上部のゴムアイドラーに伝導するようにセットしてください。
- 60Hzの機械を50Hz地域で使う場合は50Hzのときと逆の操作をします。
  もしこれがご面倒でしたら弊社サービスステーションにご連絡ください。

24 異常の点検

異常があった場合はつぎの点をお確めの上、もよりの弊社サービスステーションまたは販売店へご連絡ください。

■操作スイッチをMOTORに入れてもモーターが回転しない場合

①電源コードが正しく差込まれていますか。
②電源コードが正しく接続されていても動かない場合は、スイッチ、モーター電気回路の故障ですから修理にだしてください。

■フィルムをそう入してもでてこない場合

①フィルムそう入口に充分押し入れてみてください。
②フィルムの先端が折れていませんか。
③フィルム通路にフィルムの断片、ゴミなどが付いていませんか。

④フィルム切換えノブの操作を間違えていませんか。

■操作スイッチをLAMPに入れても映らない場合

①映写電球が正しくソケットに差込まれていますか。
②映写電球が切れていませんか。
③映写電球に異常がないのに点燈しない場合は、スイッチ、電気回路の故障ですから修理にだしてください。

■画面がちらつく場合

- フィルムのパーフォレーションが損傷していたり、接合の仕方が悪くてもちらついたり、途中で止ったりしますから、その部分を切取って正しく接合してください。

25 楽しい映写会にするために

■できるだけ部屋を暗くしましょう

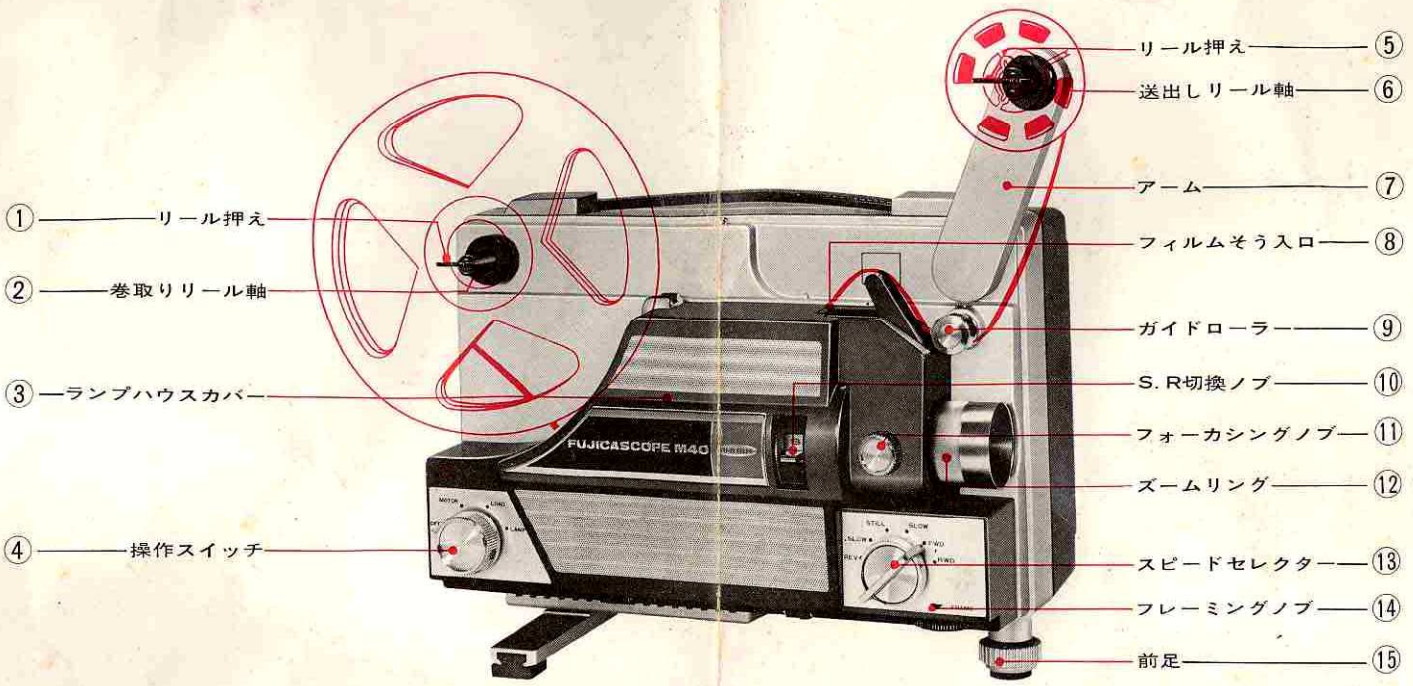
映写機本来の機能を充分に発揮できるように、できるだけ部屋を暗くした状態で映写しましょう。

■なるべくスクリーンを使用しましょう

最高の映写効果を上げるためには、スクリーンを使用することです。もしスクリーンがないときは、ケント紙を用意しましょう。なお、投影された画面がスクリーンよりやや大きめに調整すると、画面の輪郭がはっきりして、よりいっそう映写効果が上がります。

■映写の前に、映写機のゴミやホコリを払いましょう

映写機を常にベストコンデションで使うには、映写の前に映写機をよく点検し、特にフィルムの受光窓、アパーチュアー



部分、レンズ部分などのゴミやホコリをよく払ってから映写しましょう。

■映写電球の予備を用意しておきましょう

映写中に映写電球が切れるようなことはめったにありませんが、電球が切れてからあわてて買いにいくようでは、せっかくの楽しい映写会もだいなしです。万一に備えて予備の電球を用意しておきましょう。

■フィルムは編集しておきましょう

楽しい映写会にするためには、フィルム交換が少なければ少ないほどよいものです。フィルムをつないだり、簡単なタイトルぐらいはつけておきましょう。

■人数によって映写距離を変えましょう

8ミリの場合、普通の映写距離は3mぐらい、少し人数がふえて5mぐらいが適当な距離といえましょう。また見る人ができるだけ画面に対して中心に集るようにすれば、それだけ映写効果が高まります。